

ことばの露

希因三十三回追善集
天明六年春刊

希因三十三回追善集

中村俊定文庫

文庫 18

618





山梁也梢むうを既水の香と... 葉お書一をゆ
 うり山梁乃維子是を古已日毎了杉栢の
 葉を拵ひくく長く葉家形をを居久ゆ
 事一仰了風ふのきにむすりのも頃を
 丁好と卯季加眞乃國金府の居士小寺後川能ス





秋晴形人並慕あす卯山す登れ

田外大豆引の謳も消へず又京は

寂きり

一抄

露をぬきし小笹吹きし山路を那

るれりうさよいー好も志月

後川

種を新靴解き袴半の衣去く

世涼

かーあま長う耳し大あま子

抄

一とせむさう既海生り半去記

川

鯛乃浪来しうか設場

涼

等者若し音教と別鄙景已

抄

妹の記念乃あさ海形もその

川

妻と味し人形おりひり胸いこ

涼

帯り若り新奪乃家

抄

碎をきし流るる吾源

川

さすくし伊と乳土手志油木

涼

引あけよか乳取戸の打を川邊

抄

くしめく通る角力取形宿

川

糸布ふふ名月以の付り風
一乃きよりも氣遣喪る中
朝鮮の画師よ和を阿つる
八重山の河々日暮白ひ流
葛蒲をく池の山波風絶
祢直形高よりおとれり
せいのりをいひとせぬ
大根ころの哥 帝ふ其夜
黄銀乃乃よふは法華
筏よ化る舟一乃漣を足
ほくさん下り碗粥煮乾餅
病室 芽子り甲斐此任本
有言乃種よをてを鮑觸
結弓曲者弦乃くさき松脂
水々も水もくく漣の付
隻の田に見乾稻粒未草
深村をいぬ顔みく美穀
さよりよさやき傾城乃瓦

川抄涼川抄涼川抄涼川抄涼川抄涼川抄涼川抄涼

眞さくろりわく己のきまを腰隠し
帯一法よ 結ちり 長持
むさし 望や相撲のまよ行流
喜のさし 路り 明るををし
涼川抄

可来亭哥仙

植間思也 萩乃下 あり 忘れ
泥郎

舟り 浪 詠 吹と 急く 七 洋了
後川

一人乃 連し 多き 男形 足 世 童
如童

酒 真中 手 拭 流る 店乃 先
我々

降、まこ あり 異さ せし 毛
世涼

原の 山よ 玉 寄り 浦の 夕 流
蟻印

賞、引 籠れ 刻し ぬ 結り 又
郎

徳 此り 糸し 母乃 糸 引く
来

ハ 童 泣 む 音の 風 あり 川 意
我

あ くり 東よ 雞 鳴 中 初る
童

敵の形さけりし控る新兒
 名を埋む栢の森乃下蔓カウラ
 栢ありしや千本の内首不
マケケク 吾の涙ありしる心 暮衣
 塵手より結女水白ひ流し
 花道に本きく 其形乃月落て
 了る身より競ぬ小望の弱智
 春後き 畚播の冥其栢庇
遠言よりある控りし 新に乱
 あとまじく 矢形さ 晴乃 暮
 葉様より千代の古道おふりし
 折りし涼しき 露を 宿 暮
 冷き 形より 栢より 波の上 入り
 命 目出き 起 澄 流く くれ
 餘 必り 筆の 栢カウラ 指りし
 物 静し ありし 糸の ありし
 新 さえく 月より ありし 羽白虫

川 涼 印 郎 童 来 我 郎 童 来 我 郎 童 来 印 郎 我 来 川 童 郎 我 来 印

菟よと越え火屋乃薄き
等蓮の薄形変破色差
病の歩履を病む半の音伝
家當く品胎か乳之今日
壺茶の側^平高聖老若一
浦乃流瀾乃望北半咲
車形鳴く如砂り木を灼
我 来 印 童 来 郎 筆

喜の行

喜風か肩に集る子乃
福引や人地よけの乳物の教
おのく^一う^一初音成
おの^一う^一や^一喜^一ハ^一可^一の^一百^一の^一多^一
おの^一子^一能^一必^一お^一の^一ま^一の^一き^一ぬ^一是^一の^一成^一
おの^一陽^一の^一う^一の^一や^一の^一あ^一の^一雛^一の^一此^一色^一
おの^一乳^一人^一乃^一横^一き^一の^一山^一色^一の^一抄
久通
能^一キ^一水^一の^一出^一色^一は^一流^一の^一田^一螺^一の^一瓜
蘭更 可卜 巨井 如童 一扇 一抄 秋瓜

夏乃部

松のつゝま節、河原松の上田タゲエタ詰

松菊

老翁孫傳りよ啼也ほくま

花尾

あふや氣をえんきくぬ一ツ松

可来

船隊の課才赤一雲乃峯

煉栞

高川やかき海都のむら車

蟻印

口考中長乃夢よくしよ又宮北海士

春之坊

文通

さしよのむらやのむらやのむら

東 暮木

秋の部

涼風乃中よりおとれ秋の風

馬來

龜礪や傳の赤き出ス瓜乃馬

泥郎

杉風志白く無 登志碓り船

擗子

只よりあし布勢の棚よれきも了無

家持心乃いよ一紙きんを人いよあんや

すしハ尾の必丹生を山やきくま

のちをと稀りり中よも鏡の詠某の埋色

市姫の宮も踏雪鳥の赤きゆのし神さ

い〜そ〜て秋乃ふれはつた
あつと見えゆ

い〜十月いよ〜十七布帯の秋 蘭更

彼々越の隔路は語〜秋乃よ〜
文字とり〜きよ〜後と形字

いよ〜乃舟きやう〜ん布帯乃波 後川

根よりえ〜ぬぬの奔は 暮山

山波や聖分〜種ん 世涼

鬼灯の果氣 淋〜さ〜鳴〜音〜

冬行記

ゆ〜〜や誰〜梅子乃右火桶 麦水

初葉や蹴ふを〜山〜乃壳 我々

古葉お香の羽衣は枯い〜 擧園

か〜人をと〜〜姉〜や〜おの香 楚丁

為月や水はをる黒 車大

文通

埋火や灰了書尺就友志叙 蝶夢

分ハ一の筆子ハ何ゾ里の西足孫也
何リハ一ハ何ゾ里の西足孫也
何リハ一ハ何ゾ里の西足孫也

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

空 空クヤ 空クヤ 空クヤ 空クヤ 後川

乃病少よ却と如人の数よ入水りさく控え
此毒乃余実を失を此はあうく在あゆくはを
友のあを記よ抄れいおのつうく予り旅舟の四地
を白みく又りや任到一葉靡よみあゆし
ふ多啼あおのほ色くハ即り灯火のむとよ
りかたあきしき身白を起一く生涯重中の
急りあすん憐色海を乃船頭の大なる境
とも同くさるさる一のハ

五十年

菅野考後川

冬ふれやおの作あ歌旅馬
朝月暮く川勢如乃道
炭度も奇く治定よ新りて
春ミ上りきる下戸形友あけ
苟^カり家く罵詈雑言の隣り
枕よあふらり聊又あ馬
飛やりのまやた甲ツの取うま
塀りるに園りまはれ晴門

川 水 更 川

春のふみ花の秋もあきあきなり
 暴風ふきあはれあ乃く
 巖隅了好いゆきまりて二柱
 首さーのーく 歎あきし
 何るもあきや月よえ婦の形
 路も板さるる 吾底あき家
 修り者の好意うらよ白もあき
 片唄よきさ 老乃一生

山雪 整きし 雪の下

唐人ものけり 羅西近江
 伝り 詩を書り 風流あき
 岡すい 吟臺より 細中 落
 日よきさ 夏乃 暮
 血の池よ 美女の通一 温泉のき
 手あきし ぬきあき
 色外よ 琵琶の音も けり
 森乃 境り 半 月

持りくむ 晚箱乃 翠の二重け
角力り 滄々長り 序陰
刺きて 天窓の中より 即切紙
ソリ 降とも 翔日 残 互
御車の 庇り くらき 斗の縁
妹り 黒木よ 葦 ぬら 泥 墨
糸の 百も 三つ 無 親 縁 糸 子 墨
後 上 代 乃 箱 中 何 本
白 海 曲 小 石 項 乾 ぬ 井

千 夜 行 下 星 の 光 も 不 比 籠

金 城 の くらよ くらよ の 五 折 と お き
小 糸 川 の 音 乃 伍 乃 彦 女 孫 一
乙 子 乃 訪 乃 告 趣 七 高 家 終
日 う け 乃 葉 の ぶ 色 村 抱 ち
落 の 芽 も 心 乃 楮 の 楳 三 三
何 乃 先 乃 仕 乃 乃 乃 乃 乃

後川
暮山
春之坊
世涼

在

水怪了看 到記を 春の 河 車大

甕よりさけし 厨斗を 高紐 川

涼しくも 飛鳴 暮孰 春の 月 山

猶乃 葉 動る 所 乃 詠 春

信濃 路や 爰より 思儀の 先 大

粟の 小之形 如 蕙 乃 仄 忽も 涼

亦有 亦よ 玉の 多枕 乃 一 川

妻戸 此 言も 降 種 念 山

能 肥 乃 代 乃 起 乃 乃 乃 春

何事 乃 毛い 々 如 乃 曉の 下 大

星 乃 乃 強 乃 餘 乃 乃 乃 春

弱 此 尾の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 山

乃 乃 乃 乃 袖 乃 乃 乃 乃 乃 川

乃 神 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 涼

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 山

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 春

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 大

古

古

恙衣しと之記ハ靴のまきし種赤
泪の落る首桶をくしり
多 細のひとり溢れ、黒書院
日乃透函靴 舟の空蟬
葉の香き風凡の衣子程白く
朱衣くしり双六乃 盤
物了りよき地を立ぬる程
寄きくは返す今日の草花
鶉乃老の靴 袴 袴 袴
美 惜 氣 氣 氣 氣 氣 氣
襟 為 ぎ 小 袖 の 上 孔 印 の 帯
温泉乃功 荒起山後の詠
新礼了園 詠りて後形月
男 交りよ 碓 うち 者 妻
阿の村 氣 互の 鳥 白 次 子 一 く
三 子 一 の 煙 け 三 子 一 子 一 子 一
蕨くよ 風乃かきり 花夕鴉
肝 為 貴 子 蕨 子 蕨 子 蕨

川 春 大 涼 川 山 涼 大 春 川 大 涼 川 山 涼 大 春 川

さよふ寝く月よあふ妹り夕
あひ音り川り葉のほろひ
夜直り岩根けし水乃文
登り後サカ野強力サカさ
腹のま龍は夕伸し押強し
廣く二階の隅よ揚ヶ窓
さとり泥告着糸の時あや
おのり福くくま園さ馬羽

川大山川春大涼大春

死シ山ヤマ好ヨシ中ナカをヲ奉ホウりテ祭マツル
控るの蒼ま交り龍ふん
屋上よ響り宮の物置
足袋の越り去りて楫枕
さのあやまもあま七
月陰乃くけりに明き紫霞舟
下冷し初流待者乃友
鳳管の烟くくろま始りく
治承二年の長十五月

大涼大山大春川大山川春大涼大春

沃 深 の け や く して 暖 かな
 華 櫻 送 歌 未 崔 野 の 未
 流 衣 因 之 子 帷 美 花
 海 苔 子 輕 智 誠 養 万 美
 凹 凸 子 簀 子 乃 上 花 華 庭
 室 一 子 午 時 花 遊 糸
 華 大 春 川 山 涼

西 の 百 勝 雲 無 形 色 中 夏 元 後 川

十 丁 子 子 乃 城 下 の 古 風 元
 苗 子 子 子 乃 乃 乃 乃 東
 秋 列 如 月 に 如 子 龍 子 乃 子
 追 一 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 露 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 高 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 川 涼 川 涼 川 涼 世 涼

啼やあふりもせき離世然

涼

水砂よ風もすけあふ能飛の浦

川

あふりあもー 杉乃根反り

川

響よ来よ羽織行村あふ知つん

涼

泪の中より亡君あふるを

涼

越よ残り糸掛よ帆無糸

川

水分ヶ出れ高山の月

川

詩よよふ至麗の眉を嗚呼り海し

涼

聖り空よりきん三舞乃酒

涼

西舟の星をまよしく乱よ入

川

秋葉破世よいのれ甲斐をさ

川

さりは海よりま生よあ岩の洞

涼

空を寂よけよ経お乃結

涼

順禮のねとこと知りよ子登

川

糸差指川 巻よ取乃冥

川

抄の柄よあまりよ井戸の涌上り

涼

ろりろあ氣よ馬雲きし川

涼

乳よさう乳よと抱りて内出

涼

盆よおろし〜 籠の巻け〜
 篠深く目よ隠せ〜 歩乃音
 枝枝落〜 萩^{カシ} 豊 飛 ぬ
 袴衣よ古〜 桑の女 巫
 十^モ五^チのいよ井よ弟百 蝶 取
 ニツもあさい 摺 袴 了 水 返 海
 笛 聞 了 せん 籠の眉 畫^ホ 多^コ 子
 詠 之 居 籠 是 折 已 日 牆 乃 外^ト
 日ハ入 籠^ウ〜 音 お ぞ 子 空
 涼 子 川 涼 子 川 涼 子 川

去とる乃 露 毒 下

梅 籠 折^ク 竹 垣 春 内 和^ウ 乳
 冷 飯 了 妻 是 籠 毒 の せ 一 籠 瓜
 幸 山 や 雪 舟 忌 又 花 了 雲
 と 糸 抑 和 紙 籠 毒 歸 如 布
 妻 阿 の 世 乃 た ち 一 小 雪 け 一 乃 忌
 追 を 尾 一 馬 一 一 一 一 一 一 一
 行 岳 や 薄 尺 一 一 一 一 一 一 一
 五 考 呂 鳥 女 古 じ 車 大 梅 嶺 里 中 金城 北 蘭 尾

海風や重波の如く猿の聲
 縮株了世一紀秋乃の多きう
 夕あすお津りし和の村時面
 藤一や香り穉き乃の仙花
 埋火よ時討乃刻中お可那
 車大
 扇来
 馬仏
 流螢
 竹之坊

水濱波洗蓑若鬘

杉の葉も乾任くの岸乃暮

標子

除下影の如くその影も
 泥殿

元りきい乃暮酒如好り
 磯し戸の油をく月明
 色くありく清きくあり
 系和葉乃曲りあり嘆き
 出家あり人よとて
 磯りく大肌如泡も揺
 日りく時九
 子らくと靴のさるる温泉の流
 後川
 大漢
 可来
 虎
 子
 来
 即
 子

川の杉をぬき 寺をこきりぬ
高き木を伐り 乃 禱を海へ
五両をとり 乃 買ひ買ふ
はらりと 油の小路を
親の氣を 房よりぬき
て 地の真よりぬき 神の
清く 上りぬ 寺の環を
離

川 来 郎 虎 子 川 漢

新白 旅伴 ぬき 寺好 ぬき

川をすま

庭をぬき 乃 あり ぬき

後川

畑横より なる 山をぬき

希也

流より 川より 田種 ぬき

川

流撞 申 乃 斤 村

也

小 東の あり 乃 ぬき ぬき

川

今 庭 ぬき ぬき ぬき

、

木 栲子 乃 ぬき ぬき ぬき

也

後神おろし 水のくちり割

後切く世の好みぬ夏おろし

あきくしんく類 貞文り袖

りくぬく車裏院乃御所

目のやりの海き冬州

岩の丸るく極小海雀

帯ふ修験は是る山伏

撥舞乃前キへきを料理物

五丁直よふの中あり若みり

季の鳥りり太鼓しん

舞者の組きんしる葉の累

情りし告し花 奥乃耳納る

大切よ 産乃しんく挽茶白

土用乃 楓きんしんくねよ好く

秋近き 桐の葉か形星月夜

禱に 櫛形ありぬ 泉殿

任りのしりりる西けく

川

也

川

也

、

、

川

也

川

也

川

也

川

也

川

、

也

長う春の氣母了 倍トウ臣モノ 川

連付く 縁よまりの氣朗 川也

本綿祈り 濡き火くま記 川也

空架ふむ ろ傘の益々窓の茶+ 也

手紙もあり ちりよきまの 井 川、

根あり 葉の存の氣乃喰ありし 川

現乃ちり 夢の破れあり 川也

傾初よ 傾トセヤ屋の歎キタ 川也

又 足ト 乃 難乃 唱音 川也

杉の古 葉のさりき 枯活 川

甘明山の水有葉 呂鳥

楼高し 堂の遠乃目や活 可ト

拂ふよ ちの 袖を 露 我々

葉の香 冬一 雨千の気分て 五考

みありと いろよ ちの 活 五考

為鹿誰乎誰山山

暮山

朱筆朱正正琴琴鐘鐘のの弱

後川

植植るる先先とと植植生生隠隠しし乃乃桃桃のの葉

ト

と外外英英一一成成妹妹のの兄兄并并

鳥

西西念念のの心心行行じじ一一路路下下襟襟りりと

考

重重濁濁の中中あるある冬冬皆皆日日乃乃登登風風呂

我

海海芽芽生生るる狐狐乃乃取取くく葉葉のの窗

鳥

園園とと阿阿とと小小みみ片片とと其其細

ト

相相撲撲のの名名形形有有りりとと其其借借るる

我

弓弓振振ぬぬくく月月をを産産むむ

山

ままささくく牛牛るるのの叫叫ぶぶ次次丁丁のの浦

ト

石石のの窟窟とと穴穴乃乃加加藤藤乃乃火

考

世世ははううろろくく意意とと其其乃乃其其葉葉を

川

依依御御とと掃掃葉葉のの名名ももたたすすに

鳥

糸糸遊遊りりよようう遊遊れれ日日南南のの栞栞檠檠

考

貝貝売売廻廻とと鳥鳥ををひひとと記

我

時時輕輕乃乃仁仁とと其其乃乃記

鳥

位位牌牌とと其其乃乃記

ト

張籠子かきあけり木の葉炭

あし乃羊よ二ふし乃香

情賣あも通るん物 考

女の胸乃狭きおん 考

奥第よ瓜磨 楠のえとるよ

雲乃あし一の属さ 隼内

半天よ消る月 月の軌あり

妻れり 飯すむよ 野原

新母のあしとあし 野原

あしとさ 雲よあしあし 入梅の中

柱よりつる 番匠り 下知

相生よあしあ 部の右左

妙形り 短紙 讀白 瓦 考

喜乃初

喜のあしとあし 考

喜よ降るよ 考

我

考

山

川

卜

鳥

考

我

川

考

鳥

卜

我

山

漁船

鳥考

山梅や祝當り花妹り直
素后
道元くまの鐘かきき一浦の坊
二笑
崎鳥老る已り春雪りさし
市山
春百やあけりりりり物りり
車大

まゝ花や
楊花
細く春る
花乃色

まゝの春やまなく下花ち種手
暮三
物りけ乃隣あまりり春りり
風鳴
春れ花る花冬の花をさる
白川
陽とあやま教の中より花乃枝
八鬼
提灯の清く春る物りりり
楓橋
山吹やまは物りりりり
花木
川口やゆりの花ゆり乃花の層
風逸

甘夏の節
杉花をりりりりりりり
如芳

卯の道や宿の静けさ秋の星
初野や苔ふもつれ丘のあり
岸の山よりさしあたる水
るはるしー 遠くゆく 藤枕
うらうらふ 編幅の月あは

北雁
仙呂
碧水
女成
北童

秋乃行

山の隅や床乃寝るちあ日
清つた露あはつ乃あはる

石丈
流螢

あはれやと更けし山のあはれ
葉をさす みるやみ 小葉を

美水
柀波

あはれ 秋の音
あはれ 秋の音

如卜
文臯

冬秋行

初時 山を 木賊乃色子あり

不二軒

芭蕉忌

あはれ 山の梅より 泥の
あはれ 山に 遠く思ふ

花あはれ 讀ふ憂世の山あり

後川

古國東海の陣跡ばかり相州と浦と
 所と一院とやもゆる歴史跡と古事と
 大河の雪は作さくハ起す一工母のり
 新お懐く編月半より雪の跡よ
 荒れぬるあや寧津の高よ
 節一毎ハ毎ハ寝る人のほれよ
 知るは雪の跡よ一の音ハ
 越る色乃つるありし寧津の山伏
 片便もんやとくや郷あま
 けりりもきりひひ〜知も
 暖れハ出りハ山流る地
 尾尾のこも多く〜り
 降のこ〜り多〜り
 此の〜り他も相水と
 標と形も付た

園葉乃〜り
 寧津の山
 維村了の了あの一
 能登跡をみる
 此集と探る席と
 位ける〜り
 流る〜り

相州三浦横山主

釋希也

追加

四季

有季

有季

有季

有季

群 生 春

号 之 の お ち ょ

山 口 夕 屋

尾川

高垣

海 之 田 原 小 谷 乃 中 村 高 帆 行 帆

虎 乃 屋 と 之 子 も

白鳳

海 山 橋 之 那

一高し啼きあはせし暮乃猫

世凉

や出とあ地世の中あゝ朱筆

踐卵

草よりや吊士乃写澤より筆

泥郎

夏りや筆成る如くハ日月

樽子

けし子さるハ五尺乃ハ秘の地

如童

涼しきお舟よりしりし瀆庇

貯夕

輝りやる楽り水しりし川

氷蝨

侍より代山氣のる水屋抄月

我々

西り乃侍 暮し 秋のあ

えん

定帳や火電をゆく秋の土

可来

行将乃 露土山や多花糞

大漠

作是く 風をよるし暮菴ハ

呂鳥

風や 暮より吹入る 山よりす

東冬

机火成るくくく 細代も毎

鳥井

窓をけくく水の本の葉乃降おふ

鏡湖

悔ふもあつぬ衣に肩より

擗子

わづらひをてし悔い

呂鳥

孫の比乃彦ふあまも常

如童

見ちつ通に大寺豊

大漢

海よりあしし

里中

何よふとて形く

我

空柱乃ふきとら

来

梅よりりあ初月

蝥

出代のきの物とて

卯

生代の終家

卯

海草生る恋ゆ

漢

す知るる傘

子

新道のまぶ

鳥

村よる船

郎

水鷗の静き

蝥

る是し

童

野くまの漏

我

誰の念佛

中

夕月おろそ大夏宵少て鳥も
念ふややもこれ秋宵よ形季
手詠まよ又誰り宿る下駄の音
大夏のはる忍 来童かよ形
力あゝ朧おおきく一にありん
けく群あ甲形も形た不形物
自佛堂ふあやま子出活しん
何のさよほあそくかゆり難無汁
初め海杉形おののお場あま
伏尼の橋もあまの名強り形
懐くあそく入ん、夏羽織
秋司くくと皆可也あそ
月さの音あそはあまあそ
陽をあそくあそあそあそ
瀧水のあそくあそあそあそ
門の左あそ見懐いと懐
時乃あそあそあそあそあそ
荒らあそあそあそあそあそ

蕉 菟 圃 蕉 菟 圃 蕉 菟 圃 蕉 菟 圃 蕉 菟 圃 蕉 菟 圃 蕉 菟 圃

浮泊年と累年一白くし
やん 幸よあふよ并せ
横目のやんよ志しし也

後川



暮柳舎藏

天明六年丙午春三月穀旦

賀州金澤府博勞町

板木師平藏

同 市郎右衛門

梓行

